

昭和50年、市の人口は10万人突破

●10万人目の市民
大内 朋美さん
(新狭山在住)



今では16万人を超える人口の狭山市。5000号の長い歴史の中で、今回は10万人目の市民、大内朋美さんに再登場していただきました。
大内さんは昭和50年12月生まれで今年22歳になります。自分が10万人目の市民であることは、両親から聞いたそう、小さいころは、ご自分でもそれを友達に話していたそうです。最近では意識することはないけれど、市の人口が増えていくことは、

過去に広報を担当した職員にもアンケートをとりました。年代が違っても、担当が違ってても、広報を作るうえでの心掛けとして共通していたのは、「市民の皆さんに親しまれ、わかりやすく、正確な広報紙ということでした。そして広報紙づくりの魅力はと聞かれ、多くの広報担当者たちが今も昔もこんなふうに答えます。「いろいろな人や場面と出会い、貴重な素晴らしをお話を見聞きできるのが一番勉強になります。そしてその素晴らしさをより多くの人にお伝えし、感動を分かちあえたら。」と。



サンディエゴにて、学校の友人と写真の右側の女性が大内さん

やはりご自分が節目であることもあってか、とてもうれしそうです。広報紙もたいてい目を通すそうですが、イベントなどの情報が掲載されているのが便利だとのこと。また、郷土料理の講習会などにも興味があ

って、そういった記事はよく読んでいます。現在、大内さんはアメリカのサンディエゴの学校に留学して、パソコンと語学を勉強中です。留学して変わったことは、の質問に「ハングリーになりましたね。狭山市も、これからもっと国際化していくことと思いますが、外国のかたとの交流パーティーなどが頻りに開催され、気軽に参加できるようなになると、市民レベルでのお付き合いもしていただけるのいいと思いますね。」と素敵な笑顔で答えてくれました。
大内さんのように、夢のある若者が生き生きと暮らせるまち、そんな狭山市を築いていきたいですね。

「市の歌に応募・みごと入選」

●市歌作詞者
尾崎 勇治さん
(中新田在住)



紙面を飾っていた一人です。その尾崎さんに、23年ぶりに詞に込めた思いを語っていただきました。「私は、狭山市の大好きな部分である、自然がたくさん残っている様子を歌いたかったんです。そこで1番は、目線を下に落として清らかな入間川の流れを歌いました。2番では水平に目線を持ってきて、身の周り

あの人の今

「緑をうつす

川面には つつじの花びら

あやをなす...

20周年記念として作られた市歌の作詞者である尾崎勇治さんも、当時

の緑や鳥のさえずりなどの自然、これを表しました。そして3番で空を見上げたんです。澄み渡るブルーの空とは対照的に、近代的なビルも表現し、狭山市のさらなる発展とこれからも大切にしていきたい自然との協調を歌ったんです。」
公民館のサークルで、趣味の古典文学を読むのが楽しめという尾崎さん。今は源氏物語に挑戦しているとか。広報紙は毎回必ず目を通してくださるとのこと、市民のかたがたくさん出てきて、とても親しみが持てますね。」とのお言葉をいただきました。
取材先で聞くことができる、市民の皆さんのこんな励ましの言葉が、



当時の広報紙の記事 (昭和49年11月号)

私たちが広報紙を作っていくうえで、最上の栄養剤となっているのです。

広報さやま500号発行記念



もつと身近な広報紙をめざして

皆さんは広報紙にどんなイメージを持っているでしょうか。難しい行政用語が多くてどうも分かりづらいな。「なんて思っいたらイヤいせんか。行政上のお知らせも、皆さんが楽しんでみているイベント情報の提供も、同じように広報紙の大切な役割です。そしてそれは「狭山市ってこんなまちですよ。」ということをお伝えする、いわば市民の皆さんと行政の架け橋なのです。

この特集を企画するにあたって、



昭和46年ころの入間川七ツまつり (昭和47年8月号表紙より)



平成9年、今も昔も、なつかしいふるさとのまつりです



昭和52年、狭山市駅東口ロータリー



現在の狭山市駅東口ロータリー

もつと魅力的なまちをつくる架け橋となるために。

表紙デザインの変遷



創刊号 (昭和30年)



第69号 (昭和36年)



第93号 (昭和38年)



第227号 (昭和49年)



第333号 (昭和58年)

「市制施行後、2年目に創刊。『市政一日も信なかるべからず』の言葉も。」

「狭山市政だより」の題字が横書きに当時の人口は約3万3千人。」

「広報さやま」に「市民の広報紙であり、ますように」との言葉が添えられた。」

市制施行20周年。写真が多く掲載された特集は「さやま」の「中味」。

表紙には市民の皆さんの顔をたくさん掲載。身近なかが登場したかも。」



第345号 (昭和59年)



第393号 (昭和63年)



第441号 (平成4年)



第465号 (平成6年)



第500号 (平成9年)

「私の提言」という新コーナー登場。皆さんの声を大切に。」

「現行デザインのひとつ前手作り。広報紙らしいデザインのもの。」

平成7年より、電算編集システムを取り入れてより見やすいものを目指す。」

※広報紙のデザイン変遷は、主なものを紹介したものです。また、広報さやまお知らせ版25日号は昭和46年7月から発行しています。